



# やばけい遊覧(大分県)

素材研究  
(国内)



山国川の溪流が造りあげた「猿飛千壺峽」。上流部は国の天然記念物



大化元年(645年)まで起源を遡る羅漢寺。日本三大五百羅漢の一つ



旧・耶馬溪鉄道の線路跡はサイクリング道路に(写真は鉄橋部分)



日本一長い石造アーチ橋の「耶馬溪橋」は、大分県の有形文化財



久大線が全線開通した昭和9年(1934年)に完成した旧・豊後森機関庫。急峻な峠越えを支えた歴史を感じさせます

石柱群が伸びる玖珠町側・深耶馬溪の雄大なパノラマ「谷河内の景」

深い歴史と景勝の大地、山水絵巻の道をゆく  
神秘的な奇岩の渓谷は文人墨客の憧れの地

大分県の中津市と玖珠町が申請していた「やばけい遊覧」大地に描いた山水絵巻の道をゆくは昨年4月、文化庁によって日本遺産に認定されました。伝説と折りの場として、1000年以上の歴史を重ねてきた「耶馬溪」。文人墨客の憧れの地でもあった奇岩の渓谷は今、改めて、その神秘的な魅力に関心が高まっています。

## 奥深い魅力を持つ二本の絵巻物に

大分県北部を流れ、中津市の西で周防灘へ注ぐ山国川が溶岩台地を深く浸食した奇岩の渓谷である耶馬溪は、中津玖珠という二つの城下町に挟まれています。

南北32キロ、東西36キロのエリアに、断崖岩窟・溪流が大パノラマを織り成し、江戸時代に頼山陽が名付けたという景勝地は大正時代には66景から成る「国名勝」にも指定されました。

巨石伝説の「八面山」、絶壁に立つ「羅漢寺」、石柱が天を衝く河童の隠里「裏耶馬溪奥耶馬溪」、テンプルマウンテンに囲まれた「玖珠の森城下町」、巨大な岸壁が折れ重なる「競秀峰」、禅海和尚が30年かけて掘ったトンネル「青の洞門」など、次々と場面が展開する山水絵巻のような耶馬溪は、古来より多くの文人墨客を惹きつけてきています。

大正に入ると観光列車「耶馬溪鉄道」が引かれ、探勝道には日本の長さ競争のアーチ橋も相次いで架けられて、耶馬溪は奥深い魅力を持つ二本の絵巻物として完成したのです。

## テーマ絞りリピーター観光を開発

1970年代には、沿線の過疎化や道路整備の進展などで耶馬溪鉄道が廃線に追い込まれ、「国名勝」として名を馳せてきた耶馬溪も「紅葉の名所」として秋を中心に賑わう観光地となりましたが、日本遺産認定で本来の魅力への再認識も広がってきました。

中津市教育委員会社会教育課文化財室の高崎章子室長によると、耶馬溪鉄道の廃線跡がサイクリングロードとして利用されているほか、玖珠の森城下町には国登録文化財となっている久大線の旧豊後森機関庫などもあり、耶馬溪は鉄道ファンへの訴求力も秘めています。

昨年12月には内外の旅行会社による研修旅行も実施され、山水絵巻の奥深い魅力を楽しめる「やばけい遊覧」の旅行商品化に向けた動きも加速してきました。

中津市企画観光部耶馬溪観光室の友松尚美室長は、「テーマを絞り込んでじっくりと見てもらえるリピーター観光を開発したい」と語り、「100年前と変わらない魅力で耶馬溪ファンを増やしていければ」と意欲を示しています。